

令和4年6月定例会一般質問発言通告表

発言 順序	議席 番号	氏名	要 旨	答弁者
10	19	鈴木 弘 議員		1 / 1
発言項目		要 旨		答弁者
1	電力の需給逼迫と地産地消の再生可能エネルギーの状況について	<p>政府は本年3月21日に、東京電力管内の電力需給が22日に非常に厳しくなるとして、電力需給ひっ迫警報を初めて発令した。また6月7日には、電力需要が増える今夏について、家庭と企業に対して、生活や経済活動に支障のない範囲で、できる限りの節電に協力を要請した。そこで伺う。</p> <p>(1) 電力需給ひっ迫警報が発令されたとき、市はどのように対応したのか伺う。</p> <p>(2) この夏だけでなく、冬も厳しい状況が予想されているが、対応は考えているのか伺う。</p> <p>(3) 所管はどの部署が担うのか伺う。</p> <p>(4) 停電になってしまった場合、どのような対応をするのか伺う。</p> <p>(5) 富士宮市ゼロカーボン推進戦略で、災害時の停電対策として太陽光発電の導入の拡大が必要とあり、そのため公共、民間の屋根及び空き地に、太陽光発電を設置するPPAモデルの導入を推進するとあるが、現在の取組を伺う。</p> <p>(6) 得られる電力は市が買えるのか伺う。</p> <p>(7) 民間施設の屋根に設置された太陽光発電の余剰電力を地消できるのか伺う。</p>		市長 副市長 関係部長
2	「デジタル田園都市国家構想」における幹線道路の在り方又はウェルビーイング及びリカレント教育などについて	<p>「デジタル田園都市国家構想」の目的に「デジタル化の恩恵を国民や事業者が享受できる社会、いわば全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会を目指す」とある。そしてウェルビーイングの考えも取り入れられ、デジタル庁の補足資料などには社会資本（道路、農地、建築物等）の整備がありその上にデジタルの整備があるとある。そこで伺う。</p> <p>(1) 幹線道路が狭く、すれ違いもできないようでは自動走行バスも走らせられないし、安心して生活できない。快適な生活を目指すため、道路整備を早める手法は考えられないか伺う。</p> <p>(2) 整備される前の段階として、デジタル技術を使ってすれ違いに困ることのないよう信号機を使うなどして、交通整理をするなど考えられないか。</p> <p>(3) 利便性の高い公共交通ネットワークの整備とある。市としてより利便性の高い公共交通システムに取り組む考えはあるのか伺う。</p> <p>(4) ウェルビーイング指標について。</p> <p>① デジタル田園都市国家構想においてウェルビーイング指標の活用が目玉になるという。各施策の意義がより明確になり、市民にとっても有益と思うが、当局はこのことをどう捉えるか伺う。</p> <p>(5) リカレント教育の推進について。</p> <p>① デジタル人材の育成が求められている。市でデジタル人材育成の場づくりを推進できないか伺う。</p> <p>② 通信教育や助成金の情報を広報できればと考えるがどうか伺う。</p> <p>(6) 「夏のD i g i田（デジデン）甲子園」が開催されるという。出場を目指せないか伺う。</p>		市長 副市長 関係部長